

# 周術期 超音波ガイド下神経ブロック —改訂第2版—

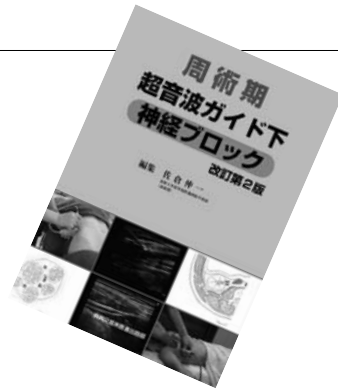
超音波ガイド下末梢神経ブロックは、今や“麻酔科専門医試験”にも出題される麻酔科医にとって必須のスキルである。しかし、日本国内で浸透し始めてからまだ8年程度である。その中で、超音波診断装置の進歩とともに末梢神経ブロックは進化してきているが、一緒に歩んでいるのが、本書“周術期超音波ガイド下神経ブロック”である。第2版となっはいるが、われわれ読者からすると、本書籍の編集である佐倉先生が作り上げた、① 図説超音波ガイド下神経ブロック、② 周術期超音波ガイド下神経ブロック第1版に続く待望の3冊目という印象がある。

本書の特徴は、第一に超音波画像が非常に多いところにある。私は、①を片手に、同僚医師にプローブを当てて同じ画像を描出するところから超音波ガイド下末梢神経ブロックの日々が始まった。同じ経験をされた先生は少ないのではないだろうか。

第二に引用文献が非常に多い。超音波ガイド下の末梢神経ブロックは世界各国で新しいエビデンスが報告されている。各筆者が近年報告されている情報を吟味し、われわれ読者に有用と考えられる情報を惜しげもなく公開してくれている。

前版の時点で超音波の原理から、局所麻酔薬の特性、さらには血液凝固異常と神経ブロックといった、ブロックを施行するための必須の知識が網羅されていた。本書では最近発売となった新しい抗血小板薬、抗凝固薬について非常に明確な休薬期間を提示している。末梢神経ブロックに限ってではなく、周術期管理においても必要な知識を得ることができる。

手術が低侵襲に向かう中、術後疼痛管理も合併症の危険性がより少なく、それでいて効果を求めるという時代に入っている。その代表とも言える手術が乳腺外科ではないだろうか。慢性痛への移行などの問題が指摘されており、術後疼痛管理の必要性を感じる手術の1つである。その乳腺外科に適している“前胸壁ブロック”



- ・真興交易(株)医書出版部
- ・2014年7月15日 改訂第2版第1刷発行©
- ・B5判/606頁/並製本
- ・定価(本体14,000円+税)
- ・ISBN 978-4-88003-884-1

が新たな項目として追加された。

前胸壁ブロックは2011年に初めて報告された、まだまだ歴史の浅いブロックである。しかし、大きな合併症なく前胸壁から腋窩までの鎮痛を得ることができる。そのような新しいブロックについても十分に理解を深めることができる。

ちょっと残念だとするのであれば、第一冊目から第二冊目に至るときには200頁もの増頁だったのに対し、前版と今回は60ページ程度となっている。これは前版がかなり完成度の高いものだったことによると考えるが、新しく購入するか迷う読者も多いかもしれない。

前述した前胸壁ブロックの知識を得るためだけでも新しく購入する価値があると考えられる。加えて、今回の改訂で、もともと充実していた内容に、一文程度ずつ追記がされている項目が多かった。この一文こそが、前版からの3年間で得られた最新の知見であるので、前版と見比べながら読み進めると非常に興味深い。

手術室で末梢神経ブロックを行うすべての先生に自信を持ってオススメできる一冊である。

小野寺美子

(旭川医科大学麻酔蘇生学講座)